

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑮の——線部のカタカナを漢字で正しく書きなさい。また⑯～⑳の——線部の漢字の読みを答えなさい。

- | | | |
|-------------------|-----------------|------------------|
| ① 売り場面積をカクチヨウする。 | ② 割引対象からジョガイする。 | ③ 日本はシゲンがとばしい。 |
| ④ 知識をキュウシュウする。 | ⑤ 相手にセイイを示す。 | ⑥ 社長のショウニンを求める。 |
| ⑦ トウロン会を開く。 | ⑧ 文化をソウゾウする。 | ⑨ 日本人はキンペンだ。 |
| ⑩ 正月はコキヨウに帰る。 | ⑪ ユウビン局に行く。 | ⑫ 人間コクホウの指定を受ける。 |
| ⑬ この犬は飼い主にチュウジツだ。 | ⑭ コンナンに負けない。 | ⑮ 芸術作品をテンジする。 |
| ⑯ 湖面に月影が映る。 | ⑰ 氣力を奮う。 | ⑱ 自動車税を納める。 |
| ⑲ 恩師を訪ねる。 | ⑳ 方針に沿って動く。 | |

問二 ①～⑤の慣用表現の意味として最も適切なものを次のア～コの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | |
|----------|-------------------|------------------------|
| ① くぎをさす | ア 驚きあわてること | イ たくさんあつても、値うちが極めて低いこと |
| ② 隅に置けない | ウ 苦しい時に思わぬ助けがあること | エ どんどん続けて行うこと |
| ③ 水の泡 | オ 努力がむだになること | カ なんとなく恥ずかしいこと |
| ④ 油をしぼる | キ 誤りのないように念を押すこと | ク あやまちや失敗をひどく責めること |
| ⑤ 二束三文 | ケ 立場がないこと | コ 意外な才能があり、あなどれないこと |

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

字数指定のある問題は、句読点とかぎかつこは一字に数えます。

A などと言われるように、考え方はひとそれぞれ。しかし、同じこの世に生きる以上、いろいろな考え方の人と意見の調整をしなければなりません。そこで、意見の違いをいかに切り抜けるかということを考えてみましょう。

そもそも、意見が違ふとはどういうことでしょうか。まず、もともになる情報、ないし状況の認識が違つて、意見が違ふという最も単純な例で考えてみましょう。

例えば、あなたともう一人が何かの行事の進行を任されているとします。開始は一〇時です。あなたの時計ではまだ一〇時五分前ですが、もう一人のもつ時計ではもう一〇時だと言っています。どちらかの時計が正しく時間を示していないようです（なお、周りに時間を示すものではなく、また、時間を尋ねられるほかの人は周囲にはいないとします）。こうした例は、単純な、しかし、根本的な情報の違いと言えます。そして、よくあることです。

では、自分の主張はどのような表現で言えがいいのでしょうか。自分に自信があるかどうかでいろいろと言ひ方が変わります。まず、気弱な人※¹バージョン。

あれ、私の時計ではまだ一〇時五分前だよ。じゃ、私の時計、おくられているんだね。

この場合、相手の主張を優先しすぎです。本当に自分の時計が壊れている可能性があるのならそう言えればいいのですが、相手の時計がおかしいという可能性もあるという段階で、一方的に自分がおかしいと決めつけるのはよくないでしょう。

次に、ちよつと攻撃的な人バージョン。

まだ一〇時ではないよ、何言つてんの。その時計おかしいよ。

こんな感じです。もちろん、はっきりと相手がおかしいなら、また、お互い遠慮のない間柄ならそう言つてもいいのですが、ちよつと言ひ過ぎかもしれません。特に、本当のところ自分が間違つているという可能性がある、という段階では、相

手の時計が間違つていると決めつけるのはよくないでしょう。

最後に、ふつうバージョン。これには二通りの例が考えられます。

【I】まだ一〇時ではないよ。

【II】私の時計では、まだ一〇時ではないよ。

この場合も、「私の時計では」があるかないかで、微妙に※²ニュアンスが変わってきます。「私の時計では」があると、文字通り、「私の時計＝正しい時間」という主張にはなっていない。あくまで、「私の時計において一〇時になってない」という事柄だけが言われているからです。これに対して、単に「まだ一〇時ではないよ」と言えば、それは、「正しい時間」だけを取り上げることになっています。表現はされていませんが、前提として、「自分の時間＝正しい時間」という扱いになっているのです。ちよつとした違いではありますが、この場合には、暗に「あなたの時間は間違つているよ」と言うことにもなります。

意見が相違する場合、このような、ちよつとした言葉遣いの違いによつて、自分や相手を否定する度合いが違つてきます。特に、このように、一つしか答えがない場合、それほど強く思つてないのに、相手を否定してしまうことにもなります。そして、意見が対立する場合、人間関係の対立の原因となることもあるのです。

ただし、意見が対立した場合、理想的なことは、その違いを楽しむことです。

あれ？時計の時間が違ふぞ、どっちが正しいのかな。

というように違いを楽しめればいいですし、お互いに冗談でけなし合つてもいいです。

さてはお前は時計を買うときに値切りすぎたな。

なんて言い合つてもいいでしょう。

意見が違ふということは、お互いに自分の頭で考えているということでもあるわけです。例えば、学校の図書室にまんがを置いてもいいかどうか、安楽死は認めるべきか、というように、世の中にはいろいろな「論争（ディベート）の種」があります。お互いに意見の違いを戦わせることで、自分の頭を鍛え、考えを深めることができます。意見の違いは、まずは、楽しむべきことだと言えます。相手の意見を受け入れ、自分も主張していく、といったことをまずは楽しみましょう。いろいろな考え方と触れることで、自分も考え方が深くなります。

ただ、理想通りにいかないこともあります。意見が違ふことで、何か感情的な「^(a)わだかまり」ができてしまうこともないわけではありません。相手との人間関係が安定していないような場合などは特にそうでしょう。

ここで、「感情」と「意見の違い」ということについて、少しだけ考えてみましょう。

よく、意見が相違する場合、違ふ意見が言いにくい、という話を耳にします。また、⁽³⁾違ふ意見を言ったために、その人から、感情的に反発されてしまったということも聞くことがあります。

私たちは、誰でも、自分のことを認めてほしいという根本的欲求を持っています（これは強すぎても弱すぎてもいけない欲求です）。自分の言うことは一応信じてほしいし、自分のすることに対して基本的には認めてほしい、という欲求を持っていると言えます。多くの場合、相手の意見が自分の意見と同じであるほうが、何となく安心するのもこのためでしょう。自分の意見に挑戦されて、それをおもしろがれる人は、自分に自信がある人です。しかし、中にはそういう自信がなく、面とむかつて反対されたり否定されたりすると、自分が認められていないというように感じてしまうという人もいます。

もちろん、情報の信頼性や意見の^(※3)妥当性は、その人の人格とは全く別の事柄ですから、自分が主張することが否定されたからといって、自分が認められていない、などと考える必要はありません。まして、自分の意見に対して疑問を持たれた

り、反対意見を持たれたりしたからといって感情的になつてしまうことは決して望ましいことではありません。ただ望ましいことではないにせよ、現実には、そういう感情的なことも切り離せないのです。

そこでこうしたことに関連した問題が三通り起こり得るのです。

一つは、自分の意見に対して疑問や反対意見が言われた場合に感情的になつてしまう場合です。この場合には、「しっかりと考えて、感情におし流されないように気をつける！」としか言いようがありません。受け入れるべきは受け入れ、それでも自分は違うと思うなら、その根拠も含めて明確に主張していけばいいでしょう。どうしてもよければ聞き流してもかまいません。自分なりにしっかりと考えることが大切です。特に、知的な内容の事柄であれば、内容は内容、気持ちは気持ち、というふうにしつかり分けて、感情はひとまずコントロールする必要があります。これは心構えの問題です。

次に考えられるのが、自分が自分の意見を配慮なしに言ったために、相手を不用意に感情的にさせてしまうという失敗です。「言い方には配慮があればきちんと伝えることができたのに、そうしなかったばかりに感情的反発を招いてしまった」という失敗は、誰しもあるのではないのでしょうか。

さらにもう一つ、相手の感情に「遠慮」しすぎるあまり、言うべきことが言えないという場合もあります。はつきり言わなかった（言えなかった）ために、最終的にはあとで強く後悔してしまうというのにもよくあることです。⁽⁴⁾これは目立った「失敗」とは認識されにくい点で、よけいにやっかいな問題かもしれません。

人間は感情を持つ動物ですが、その感情のために、しっかりと意見の交換ができなくなることも現実にはあります。その意味で、感情は「コミュニケーション上の障害」となり得るものです。

そこで、そういうコミュニケーション上の障害を乗り越えるために、「言いにくいことを言う場合の作戦」を考えてみるというのはどうでしょう。どのように言えばいいか、という「表現」への視点を持つてみるのです。こう考えてみることで、

自分の心をコントロールすることもやりやすくなります。言うべきことも、きちんと考えた上で言えるようになります。

また、そういう視点を持っていれば、ほかの人から何かを言われた場合でも、「言い方」の問題と「内容」の問題とを分けて考えることができます。そうすることで、「自分のことを客観的に見る見方」「素直に自分の至らなさを認める心」を呼び覚ますこともできるでしょう。

自分が「正しい」と思うことを言うのに、もちろん「遠慮」^⑤はいりません。しかし、時と場合によっては「配慮」^⑥はあってもいいでしょう。逆に、そうした「配慮」をしてみることが、「言うべきことが言えないまま」になることも防げるような気がします。

本文は一部省略したところがあります。

(森山 卓郎「コミュニケーションの日本語」)

【語注】

※1 バージョン——一つの型。

※2 ニュアンス——意味合い。

※3 妥当性——物事や条件にどの程度当てはまるかということ。

問一 空らん A に入る言葉として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一期一会 イ 十人十色

ウ 一日千秋 エ 朝三暮四

問二 線部③「わだかまり」の意味として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 心の中にいつまでも残る悲しさ イ 心の中に広がっていく不安

ウ 心の中にわき起こってくる憎しみ エ 心の中に引かかる不満

問三 【Ⅰ】「まだ一〇時ではないよ。」と、【Ⅱ】「私の時計では、まだ一〇時ではないよ。」の説明として合わないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 【Ⅰ】は自分の意見が間違っている可能性を無視しており、意見の信頼性が低い。

イ 【Ⅱ】は自分の意見が正しいという主張にはならないような言葉遣いをしている。

ウ 【Ⅰ】は自分の意見の正しさを前提としているため、相手の意見を否定しかねない。

エ 【Ⅱ】は自分の情報を相手に伝えただけであり、相手の意見を否定する度合いが低い。

問四 線部①「理想」とはどういうことを指しますか。二十五字以内で説明しなさい。

問五 線部②「意見が相違する場合、違う意見が言いにくい」や、線部③「違う意見を言ったために、その人から、感情的に反発されてしまった」というようなことが起こるのはどうしてですか。理由を説明した次の一文の空らんに適切な言葉をそれぞれ指定された字数で答えなさい。

人は ①・三十文字以内 ので、相手の意見と異なる意見を言うことが相手を ②・二文字 することが相手を ③・十文字以内 というように感じるから、また異なる意見を言われた相手は

問六 — 線部④「これは目立った『失敗』とは認識されにくい」とあるが、どういうことですか。説明として適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の意見を尊重できたが、相手の間違いをきちんと正せなかった点では失敗している。
- イ 相手の感情を傷つけはしなかったが、相手の意見に流されたという点では失敗している。
- ウ 相手と意見は食い違わなかったが、自分の意見を持っていないという点では失敗している。
- エ 相手との感情的な対立はなかったが、自分の意見を言えなかったという点では失敗している。

問七 — 線部⑤「遠慮」、— 線部⑥「配慮」とはこの文章ではそれぞれどういうことですか。解答らんに合うようにそれぞれ説明しなさい。

問八 この文章の内容と合うものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 感情がコミュニケーションの障害になるのは、意見の否定が人格の否定につながるからだ。
- イ 意見交換の場においては、表現と内容を区別することにより、客観的な視点が得られる。
- ウ 意見が対立した場合、相手をわざとけなすことにより険悪な雰囲気をごまかすこともある。
- エ 自分とは異なるいろいろな考え方との対立を深めていくことによって自分の考え方が深まる。

三 ③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

字数指定のある問題は、句読点とかぎかつこは一字に数えます。

お伽噺の中で、一番心に残るのは「桃太郎」である。今でも「桃太郎」といわれると、①目の底に一枚の写真が浮かんでくる。

父、母、祖母、弟や妹達が食卓にならんで、朝ごはんを食べている。小学生の私は、※1お櫃の上にノートをひろげ、国語の教科書を見ながら「桃太郎」の全文を写し取っている。登校の時間は迫っているのに、まだ宿題は大方残っていて、私は、半ペソをかきながら書いている。

勉強机もあるのにどうしてお櫃の上で宿題をやったのか、理由はわからないのだが、心細くて自分の部屋ではやっていられなくなったのだろう。

この時の宿題は、間に合ったのかどうか記憶にはないのだが、丸いお櫃の机がひどく書きづらかったこと、おなかのあたりがボロボロとあたたかかったことは今でも薄ぼんやりと覚えがある。祖母が、奥歯を噛みしめるような顔をしながら、たわしを使って※2疳性に洗うせいとか、お櫃の※3赤銅のたがは、顔がうつるほどに光っていたし、木の肌は、洗い抜かれて磨り減っていた。

私は、満二歳にならないうちに弟が生まれたので、この祖母と一緒の部屋に起き臥しをし、お伽噺もこの祖母から聞いている。当時の女にしては長身で、やせすぎの顔立ちの美しい人であったが、姿形にも性格にもおおよそ丸みというものがなく、固くとがっていた。

この祖母は、熱心な仏教徒で夜寝るときは必ずお経を上げていた。私もおつきあいさせられたのだが、この桃太郎の宿題でペソをかいたすぐあとだったと思う。②お経が終わってから仏壇の前で私に歌を教えてくれた。

※4 明日ありと思ふ心のあだ桜

夜半に嵐のふかぬものは

※5 親鸞上人の作といわれているが、これがわが人生で最初に覚えた※6 三十一文字である。

祖母は、「おぼくさん」と呼んでいた仏壇に供えたごはんを私に食べさせながら、この歌の意味を話してくれた。

「おぼくさん」は、朝、ごはんをお櫃に移す前に、※7 真鍮の仏様用の小さな容器に山盛りに盛りつけ、お水を一緒に上げるのである。夜には固くなり、線香の匂いがしみて、お世辞にもおいしいものではなかったが、祖母は、ご利益があるといつては、必ず私に半分をくれ、自分も女にしてはしっかりした骨太の掌に受けて食べていた。食べ終わると、私は祖母が仏壇の小抽斗から出してくれる桃の形をした小さい扇で、灯明を消し、ギイと戸をきしませて仏壇の戸をしめて、祖母と私の一日が終わるのである。

祖母は、歌の意味を教え、宿題は必ず前の日のうちに済ませておかなくてはいけない。夜中にどんなことが起こるかも知れない、といつてきかせてくれた。

遊び好きで面白いことをまず先にしまい、あとになって時間が足りなくなつてあわてる私の性格を、すでに見抜いていたことになるのだが、この頃になって、私のこの性格は、父でも母でもない、この祖母からゆずりうけたものであることに気がついた。

祖母は、見たい芝居、着たい着物、食べたいもの、そして好きになつた人には、自分の気持ちを押さえることができず、あとさきの考えなどなくそれを先にしてしまう。あとから、倍の苦労がくることを考えないことがあつたらしい。

この頃になって、私の祖母が、くどいほどのこの歌を繰り返して私に教え、毎晩のように※8 そらんじさせたのは、ひよつとしたら自分にいつてきかせていたのではないかと思うようになった。

末の妹に、「浦島太郎」のはなしをしているのを横で聞いた記憶がある。

祖母は、浦島太郎が竜宮城へゆき、乙姫様のもてなしを受けたはなしをしてから、

鯛やひらめの舞い踊り

ただ珍しく面白く

月日のたつのも夢のうち

という浦島太郎の歌を歌ってから、浦島太郎が亀の背中にのつて浜辺へ帰り、あけてはいけない玉手箱をあけるところで、

「浦島太郎は、白髪のおばあさんになつてしまいましたとさ」

といったのである。

私は、

「おばあさんでなくて、おじいさんでしょ」

といったが、※9 ほどこきものをしていた祖母は私の声が耳に入らぬらしく、和バサミを持った手をとめ、この人にしては珍しく放心した顔で返事をしなかった。

若さにまかせ、気持ちにまかせて、好きに振る舞い、まだ大丈夫と、たかをくくっているうちに髪に白いものがまじり、時間が足りなくなつて取り返しがつかなくなる。祖母は、自分にいいきかせる形で、私に教えてくれたのだ。

暗い夜の仏壇の前でこの歌は、かなりの迫力で私の気持ちに沁みついたはずなのだが、では、この教訓は守られたかといえ、全く反対である。以来、夜半に嵐は吹きつばなしである。

⑤ 人生の折り返し地点をはるかに過ぎ、残された明日は一日と少なくなつてきているのに、まだ明日をたのむ気持ちは直つていない。さしあたって一番大切な、しなくてはならないことを先延ばし、しなくてもいいこと、してはならないことをしなくなる性分は、かえつて年ごとに強くなつてゆくような気がする。

⑥ 口当たりのいいことを先にして、気の重さをごまかし、まだ大丈夫、明日があると思つていっているうちに、老眼となり、髪

を分けると、白いものがまじりはじめる。今まで何ともなかった地下鉄から地上へ出る階段で息が切れるようになる。

ああ、と溜息ためいきをついているうちに、雨が降り、風が吹いて、今年の桜も、散ってしまった。

四十年前の、はじめて、あの歌を覚えてもらった夜も、風が強かった気がするが、これはあとから私の気持ちがつけ加えたイメージかもしれない。

それはそうと、あだ桜というのは、どんな桜なのであろう。おぼろげに意味を判わかったつもりでいたが、一度よくしらべてみようと思ひながら、これも先延ばししていた。

広辞苑こうじえんを引いてみたら、

「あだざくら〔徒桜〕 はかない桜。散りやすい桜」

とあった。ことのついでに「おぼくさん」というのも引いてみた。

子供の時からそう呼んでいたのだが、どんな字を書きどんな意味があるだろう。ところが、どの辞書、字引きにも、「おぼくさん」というのはのつていない。やっと判わかったのだが、これは「おぼくさん」を間違っていたものらしい。

「おぼく〔御仏供〕 仏への供物」

⑥ こんな小さなことも、一日延ばしに延ばして、はつきり判るまでに桃太郎の昔から数えると四十年が経たっているのである。

本文は一部省略したところがあります。

(向田 邦子「父の詫わび状」)

【語注】

※1 お櫃——炊たき上がった飯を移し入れておく器。

※2 疳性——はげしい様子。

※3 赤銅のたが——「赤銅」は銅と金を混ぜてできた金属。

「たが」とはお櫃などの外側にはめて締めかためるのに用いる輪のこと。

※4 明日ありと思ふ心のあだ桜

夜半に嵐のふかぬものかは——桜は明日もまだ見ることができると安んじていると、夜に強い風が吹いて桜の花が散ってしまうかもしれない、という意味。

※5 親鸞上人——鎌倉時代に活躍した僧。

※6 三十一文字——短歌のこと。

※7 真鍮——銅と亜鉛あえんを混ぜて作った金属。黄色でさびにくい。

※8 そらんじさせた——何も見ずに唱となえさせた。

※9 ほどこきもの——着物などの縫い糸をほどこくこと。

問一 線部⑨「たかをくくっている」の意味として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 無視している イ 見くびっている ウ 遊んでいる エ 忘れている

問二 線部⑥「口当たりのいいこと」の意味として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 気やすいこと イ どうでもいいこと ウ 味わい深いもの エ 心地よいこと

問三 線部①「目の底に一枚の写真が浮かんできるとはどういうことですか。説明しなさい。

問四——線部②「お経が終わってから仏壇の前で私に歌を教えてくれた」とあるが、祖母はなぜ「私」に歌を教えたので

すか。理由が述べられている部分を本文から探し出し、はじめと終わりの三文字を解答らんに合うように書き抜きなさい。

問五——線部③「祖母は、自分にいいかせる形で、私に教えてくれたのだ」とあるが、祖母が自分に言い聞かせている
なとわかる部分を本文から書き抜きなさい。

問六——線部④「以来、夜半に嵐は吹きっぱなしである」とあるが、どういうことですか。四十字以内で説明しなさい。

問七——線部⑤のような筆者の性格を表すことわざを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 三つ子の魂百まで イ 雨降って地固まる

ウ 仏作って魂入れず エ 一寸の虫にも五分の魂

問八——線部⑥に込められた筆者の思いを説明したものとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖母の言葉も忘れて、しなくてもいいようなことばかりを優先してきた自分の大人げなさにおどろく気持ち。
イ 祖母の教えを守らず、ささいなことすらも先延ばしにする大人になつてしまった自分にがっかりする気持ち。
ウ 祖母から受けた教訓を意識しながらも、幼いころの性分をひきずったまま年を重ねた自分にあきれる気持ち。
エ 祖母と同じように自分の気持ちを一番に考えて生きてきた自分の生き方を肯定しようという前向きな気持ち。

1. What is the purpose of the study?
 2. What are the research questions?
 3. What are the hypotheses?

[illegible][illegible]

問二		問一		
①	⑬	⑪	⑥	①
	る			
②				
③	⑭	⑫	⑦	②
	う			
④				
⑤	⑮	⑬	⑧	③
	める			
	⑯	⑭	⑨	④
	ねる			
	⑰	⑮	⑩	⑤
	つて			